

◇調査・研究事業：農業ビジネス研究会 桂木ゆずを活用した地域活性化に関する調査・研究 —地域産品を活用した地域活性化の新たな視点—

1. 事業の背景・目的

埼玉県には、多くの魅力的な地域産品（地域資源）があり、それらを原料とした加工食品が開発され、道の駅や直売所等での販売を通じて知名度アップにつながることもあります。しかし、せっかくの地域資源が本来の目的である地域活性化に十分に活かされていないことが多いように思われます。

また、人口減少や過疎化など地域活性化の課題は、小規模企業振興基本計画においても、個々の事業者の支援のみではなく、産地産業・地域ブランド化など、地域全体が質的に活性化することが必要とされており、中小企業診断士にとっても取り組むべき課題となっています。

こうした状況を踏まえ、農業ビジネス研究会では、日本最古の生産ゆずとされる埼玉県毛呂山町の地域産品「桂木ゆず」を題材に、新たな視座に立った地域活性化への提言を行うことを通じて、診断士の知識・ノウハウの向上と行政や商工団体に対して地域活性化における診断士が果たす役割を広げることを目的に調査・研究事業を企画し、県協会から採択されました。

2. 実施内容

(1) 研究会に委員会を組成

当研究会による委員会を編成し（13名）、研究会の活動の一環として、調査研究事業を開始しました。

(2) 文献調査を実施

毛呂町の現状と課題、ゆずを活用した取組事例、地域活性化施策の3グループに分かれて調査を実施しました。

(3) 関係者ヒアリング実施

文献調査をベースに、行政、商工会、加工業者、ゆず農家の皆様にヒアリングを実施しました。

(4) 提言として取り纏め

桂木ゆずを活用した地域のビジョンとその実現のための施策について提言という形で纏めました。



3. 報告書目次

序章：調査研究の趣旨

第1章：毛呂山町の現状と課題

若者の流出、人口減少など多様化・複雑化する地域課題の因果関係にも着目して考察

第2章：桂木ゆず活性化に向けた取組

日本最古の生産ゆずといわれる桂木ゆずの特性や可能性、桂木ゆずを活用した様々な取組を紹介

第3章：地域活性化の新たな潮流

若者を中心とする価値観やライフスタイルの変化、地域活性化の新たな潮流を紹介

第4章：桂木ゆずを活用した地域のビジョン

第5章：ビジョン実現のための施策（提言）

5年後10年後の理想的な姿を描き、バックキャストिंगの方式でその実現のための施策を取り纏め

第6章：まとめ

地域産品を活用した地域活性化のポイントを記載

4. セミナーの開催

本調査研究事業の成果報告の場として、セミナーを実施しました。コロナ禍でオンライン開催となりましたが、協会のほか企業経営者、商工会職員、県職員など幅広く50名が参加し、各々の立場から多様な意見が挙げられ、気付きの多いセミナーとなりました。

名称：地域活性化フォーラム

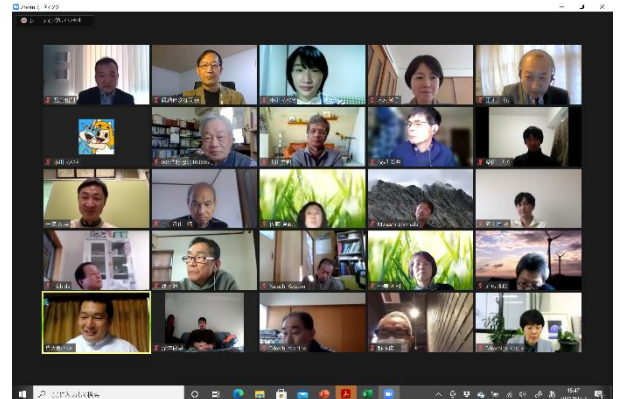
「地域産品を活用した地域活性化の新たな視点」

日時：2021年2月23日（火・祝）14:00～16:15

場所：オンライン（Zoom）開催

内容：

- ・第一部：調査研究事業報告
農業ビジネス研究会会員
- ・第二部：地元経営者とのクロストーク
ゲスト：株式会社福島食品 福島一徳氏
- ・第三部：総合討議
地域活性化における診断士の役割等



セミナーの様子